

インド・セメント・トウンガル・プラカルサ (INTP)

旧式の静電気集塵装置を最新技術のバグフィルターに 取り換えるサステナビリティ・プロジェクトが高評価へ インドネシア | セメント・骨材 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG INTP:SP | REUTERS INTP.JK

- 2020/12期9M (1-9月) は、売上高が前年同期比10.6%減、営業利益が同7.8%減、EBITDAが同3.9%減、純利益が同5.0%減の減収減益。
- コスト低下により粗利率およびEBITDAマージンは向上したが、販売数量の減少に加え、単位当たり平均販売価格の下落が業績に響いた。
- 2024年までに全ての旧式静電気集塵装置を最新技術のバグフィルターに取換えるサステナビリティ・プロジェクトが高評価を得た。

What is the news ?

11/10発表の2020/12期9M (1-9月) は、売上高が前年同期比10.6%減の10.14兆IDR、営業利益が同7.8%減の1.11兆IDR、EBITDAが同3.9%減の2.00兆IDR、純利益が同5.0%減の億1.11兆IDR。原材料となる石炭価格の下落、および低熱量価の石炭利用増に伴う単位当たり燃料および電力コストの低下により粗利率が同1.5%上昇の33.9%と改善したほか、販管費を同7.3%減に抑えたことからEBITDAマージンが同1.4%上昇の19.8%に改善したものの、販売数量が同9.7%減となったことに加えて単位当たり平均販売価格が同1.0%低下したことが響き、減収減益となった。その一方、3Q (7-9月) の販売数量が前四半期比43.4%増と改善したことにより、上記の9Mの減益率は、1H (1-6月) の営業利益 (前年同期比36.0%減)、EBITDA (同18.6%減)、純利益 (同26.6%減) から改善が示された。

セグメント別の業績は以下の通り。①主力のセメント部門は、売上高が前年同期比7.1%減の9.40兆IDR、売上総利益が同3.7%減の3.45兆IDR。②レディーミクストコンクリート (生コン) 部門は、売上高が同38.5%減の7,396億IDR、売上総利益は前年同期の735億IDRから▲90億IDRへ赤字転落。③骨材採取部門は、売上高が同91.1%減の100億IDR、売上総利益が前年同期の68億IDRから▲160億IDRへ赤字転落だった。

How do we view this ?

インドネシアの新たな規制により2020年末までにゴミ排出のモニタリングと当局へのオンライン報告が必要となるなか、同社はゴミ排出削減のため、2024年に向けて全ての旧式の静電気集塵装置を最新技術のバグフィルター (作業工程から放出される微粒子やガスを空気から除去する大気汚染防止装置) に取り換えるサステナビリティ・プロジェクトを進めている。この取組みに対し環境フレンドリーで持続的な製品であると政府が認証した「グリーンラベル」の金賞 (最上級) が授与された。

また、パモヤナン (西ジャワ) の骨材採取の新プロジェクトにおける商用生産が今年10月に開始されたこと、「ティガロダ」ブランドの灰色モルタルの商用生産が間もなくローンチ予定であること、およびデジタル化推進に伴う物流、バックオフィス、エネルギー、メンテナンス、サービスなどコスト削減への取組みなどの業績への寄与が期待されよう。

業績推移

※参考レート 1IDR=0.0073円

事業年度	2017/12	2018/12	2019/12	2020/12F	2021/12F
売上高(十億IDR)	14,431	15,190	15,939	14,285	15,454
純利益(十億IDR)	1,859	1,145	1,835	1,509	1,857
EPS(IDR)	505.22	311.29	498.56	409.76	505.97
PER (倍)	28.30	45.94	28.68	34.90	28.26
BPS(IDR)	6,670.73	6,308.10	6,269.71	6,228.24	6,345.82
PBR (倍)	2.14	2.27	2.28	2.30	2.25
配当(IDR)	700.00	550.00	550.00	450.51	425.64
配当利回り (%)	4.90	3.85	3.85	3.15	2.98

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(IDR) **450.51** (予想はBloomberg)
終値(IDR) **14,300** 2020/11/30

会社概要

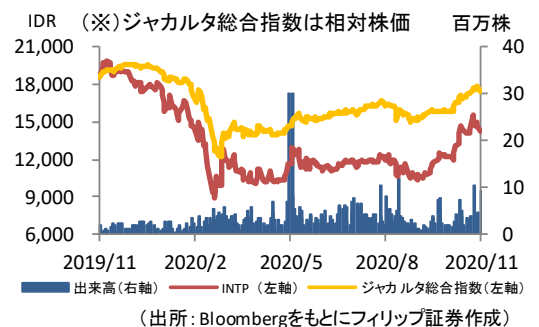
1975年にPT Distinct Indonesia Cement (DICE) がセメントプラントを開設し創業後、1985年に設立。1989年にインドネシア証券取引所へ上場。筆頭株主であるBirchwood Omnia Limitedは、ドイツの大手セメントメーカーであるハイデルベルグ・セメント傘下企業である。

セメント事業、生コンクリート事業、および骨材採取事業の3事業を展開。①セメント事業は、主にインドネシア個人顧客および住宅を対象としている。②生コンクリート事業は大規模顧客向けに製品を製造しており、③骨材事業は主に生コン向けの粗骨材および細骨材を手掛けている。

現在、窯および製粉所からなる14の統合プラントを有している。西ジャワ州ボゴールのシテレウブ工場に10プラント、西ジャワ州チルポンのパリマナン工場に2プラント、南カリマンタン州コタバルのTarjun工場に1プラントの合計13プラントが稼働し、セメントの総生産能力は年間2,490万トンである。

企業データ (2020/12/1)

ベータ値	1.28
時価総額(十億IDR)	52,642
企業価値=EV(十億IDR)	45,923
3か月平均売買代金(十億IDR)	41.2



主要株主 (2020/12)

1. BIRCHWOOD OMNIA LIMITED	51.00 (%)
2. インスコ	2.82 (%)
3. ブラックロック	1.26 (%)

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

笹木 和弘
kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘
リサーチ部 李 一承

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。